洞川いも栽培で遊休農地発生防止
（奈良県天川村農業委員会）

担い手への農地利用の集積・集約化 | **遊休農地の発生防止・解消** | 新規参入の促進 | その他（農業委員会の体制強化等）

1　地区の特徴・状況、課題

○　天川村は、奈良県の中部に位置する村であり、面積の98%が山林で占められ、農地は天ノ川沿いの集落付近のわずかな平地や傾斜地に開かれている。農地面積は、65．2ha（うち水田19．2ha、畑46ha）が広がっている。

○　農家総数63戸で、そのほとんどが自給的農家である。農耕地は面積が狭く、日照時間が少ないこともあり、生産性は極めて低く、農業の担い手の減少と農地の遊休化が問題となっている。

2　課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

○ **平成28年度より遊休農地を活用し、農業委員を中心に天川村で古くから栽培されている「洞川いも」の栽培を開始**

・　平成28年度：少量の種いもから平成29年度栽培用の種いもを栽培

・　平成29年度：栽培した種いもから昨年度より耕作面積を増やし、栽培。収穫した「洞川いも」は、農業委員を中心に種いもとして配布。天川村で新たに農業を始めたい方や「洞川いも」の栽培に興味がある方に周知し、「洞川いも」

平成30年度　栽培活動を通して村内全域に遊休農地の解消・発生防止活動を行った。

・令和元年度以降：収穫した洞川いもを村の直売所「てん」にて、天川村の郷土料理「いもぼた」として販売を行った。

3　活動（取組と工夫）の結果

○　「洞川いも」の取組は、生産から加工までを村内で行い、さらに直売所で郷土料理として販売するなど、生産から販売までを一貫して地域で行うことができた。本取組により小規模ながら遊休農地を有効活用できたものの、面的な広がりには繋げられてはいないため、課題の洗い出しを行うとともに、今後は、他の品目の選定も含め村内の遊休農地の発生防止・解消につなげていきたい。